



# 第4会場 ● 4F 大研修室

司 会 / 草野 芳人 鹿児島県出水市教育委員会生涯学習課 参事兼生涯学習係長  
久保田啓子 山口県長門市教育委員会生涯学習スポーツ振興課 社会教育指導員

分科会の進め方 13:30~13:35

1 学校図書館を校内一素敵な場所に  
～「学校図書館デザインサポーター」の図書館活性化戦略～ 13:35~14:05

筑紫 紀子(熊本県熊本市) 熊本県学校図書館デザインサポート事業 学校図書館サポーター  
本事業は平成24年度に始まる。対象は県内の小・中学校・特別支援学校・高等学校(熊本市を除く)。県の教育委員会は、窓口を社会教育課とし、学校からの申請を受けて、派遣日程を調整する。大目的は読書活動の推進、中目的は親しまれ役に立つ学校図書館づくり、最終目的は学校図書館の活性化である。「学校図書館デザインサポーター」は希望する学校に出向き、そのニーズに応じて、図書の設定・廃棄、図書館のレイアウト、ディスプレイ、ボランティアを導入した運営法等を提案・助言する。図書館の魅力が増せば、関係者の読書活動推進についての意識も、期待も、意欲も高まり、児童生徒の読書量の増大に繋がっている。

2 PTA「おやじ部」による教育力創造の挑戦  
～子どもが楽しむ!親も楽しむ!親子で楽しむ!～ 14:10~14:40

伊藤 憲一(愛媛県西条市) 西条市立小松小学校PTA 副会長(前おやじ部 部長)  
PTAで活躍する役員は女性ばかりなので、父親の参加を要請する声が強くなり、平成16年に「おやじ部」を結成し、自主活動を通して父親相互のネットワークを構築することを目的とした。活動目標は、四季を通したイベントを立ち上げ、子どもを巻き込み、親子ふれあいの機会を拡充し、父親の企画力・実行力・活動の姿などを見せることである。現在の部員数は28名で、年間スケジュールの中に、親子の「石鎚登山」、「しまなみウォーク」、「夜市」、「通学合宿」、「秋季運動会」、「もちつき大会」等を企画・展開している。結果は上々で、子どもとの交流機会は格段に充実し、父親のがんばる姿を見せる結果にもなったと自負している。また、活動を通して、父親のPTA参加やネットワークが広がり、学校や他の団体との協力関係も築くことができた。活動財源は、この種の活動を奨励する市の補助金を基礎に夜市などで自ら稼ぎだしている。

ティータイム 14:40~15:05

3 「体験」と「食」と「語り」で地域の子どもの育てる  
～保育所発「ふるさとの養育意識」の変革～ 15:05~15:35

河野 利文(鳥根県益田市) 益田市保育研究会 ふるさと教育研究委員会 委員長  
益田市保育研究会は市内29の保育所の職員が所属する組織である。組織の主要目的を、職員の研修と保育の質の向上に置き、ふるさと資源を活用した「体験」と「食」と「語り」で子ども・家庭・地域を変えることを目的にしている。平成21年度には「ふるさと教育委員会」を立ち上げ、保育プログラムの重点事項を設定した。「体験」では、海・山・川を取り入れた保育所共通の体感プログラムを、「食」では、地産地消の伝統献立・統一献立を、「語り」では、民話を発掘して、子どもの聞く力・保育者の語る力の向上に傾注している。また、地域で子どもを育てることができるよう「保小連携」、「生産者との連携」、「企業や民間機関との連携」を模索し、地域全体の「養育」についての意識変革を最終目標としている。

4 学校図書館の手づくりリニューアルの奇跡  
～激変した読書意欲のBefore&After～ 15:40~16:10

峰 文子(佐賀県伊万里市) 伊万里市立黒川小学校 教頭  
伊万里市黒川町は子どもの読書運動に力を傾注し、「家読の郷」と呼ばれている。その拠点が黒川小学校の図書館である。しかし、図書館自体は青色蒼然として、読書意欲を喚起する魅力に欠けるところがあった。学校図書館手づくりリニューアル・プロジェクトはそこから始まる。学校と育友会は地域に呼びかけ、協力を依頼した。手づくりリニューアルのアイディアは、「3千円から3万円でできる学校図書館の手づくり改修法」(\*)を参考にした。書棚を整備し、椅子のカバーを替え、アレンジは多岐に渡った。手づくりリニューアルのプロセスは、人々の関心を引き出し、子どもの意欲を高め、貸し出し数は前年比2.35倍に増加し、「家読」の実施率は1.4ポイント向上した。佐賀県の読書チャレンジ運動優秀賞も受賞することができ、「子どもの読み語りグループ」や「子ども司書」の導入につながっている。  
(\*図書館づくりと子どもの本の研究所発行)